

44 No. 202
 発行所 市田出版
 責任者 0888-88-5292

花をようやく咲きはじめ
 ました。
 ちやうと奥山に行けば、
 まだミニサクが咲いてま
 すが、梅と桜も咲きは
 じめると、もう持ちつきれ

まだモシロチウは飛びま
 せんが、彼岸がすぎると、や
 と春か」と感ひる日々となつ
 てきました。
 いや、長く感ひた三月でした。
 雪がケラつただけじゃなく、
 朝起きると一面まっ白。またかま
 とウツガリする。ごち、雪どけが
 早く、陽差しが気持ちよい。
 あん心に下手があつたウグイスも
 ホーホケキョと上手になつてま
 だ、ウグイスがうが、単葉の材料
 を調達しにやってくる。



春を咲く花とあそび

はい様に一日一日と様々の花が...
 ヤマコウバノ、シロモツクワモツとこま青空にうま
 リとタムシバの白が鮮やかに。
 ツクシ、ゼニマンとうすくワラビの山菜も手にはいり
 そうです。まだまだ福寿草の黄も目立ちま
 す。ちやうと畑を見れば、オオクヌノフグリやホト
 ケノザが咲いてくる。タニホも道路をいで春
 風にゆれまわります。
 ヤブツバキも今斗は花数が多し様々とききは赤い。
 モシロが密を求めようと思かける。
 私の好きはユキマリイケレも、咲いてくれました。
 毎年、咲く頃に同じ場所に行くと、ちやうと
 咲きはひめると、自然に顔がほころび、ゆふニヤ
 ケてるかも知れません。
 トカゲも自覚めけるようです。
 ミツバケも御きはひめてきます。先日もヤブヤの
 木の下を歩いてみると、ミツバケの羽音が聞こえて
 きたので、上を伺うとよく見れば、ちやうと黄色味
 にはなる花の顔を飛びかかっています。
 山も色がついてきました。

ちやうと水彩画の世界になりそうです。
 草木の中にも、鳥の早いニワトコなどは、早くか
 ら緑の葉を上げはじめ、その中に小さい花芽を
 のぞかせてくる。ノニベリといるヤキは、どこ
 かの畑で、ちやうとこの時を待てるようになっています。
 か芽が見えませんが。
 どの近所いこよく見ると、冬とは違っています。
 ただ、春だ、春だとうかいたひいむけの様です。
 そろそろ、生き物の私も冬服から次の季節へ
 と頭も身体も変えていけそうになりました。

一期一会



三月は卒業や転勤の月であり、別れの
 時や旅立ちの人々も多し月です。だが回
 月は、新たな出立の季節です。
 東祖谷小中学校でも、中学期は四月
 小学校では八名が卒業し、今月の
 入学式では、小学校には、男の子六
 名、女の子一名の七名が一年生が入学
 してきます。
 中学校は、八名が入学し、少くとも
 あと三年は祖谷を築きます。
 それぞれの場所が、思い出を大切にし
 て、祖谷の自然の味付けで、築く
 面白い日々を数多く作ることをうら
 古里のなごみを感じてほしいもの。